

こどもミュージアム 2019  
「ROBO ROBO ROBOT! in ミギシミュージアム」  
開催報告



表紙イラスト：江村和彦さん  
©2019 Emura Kazuhiko

こどもミュージアムは、学校の夏季休業期間に合わせ、子どもたちが美術館に親しむ機会を提供することを目的として開催している事業です。今年度は陶芸家であり、ロボットをテーマとした陶作品を制作するアーティスト・江村和彦さんとコラボし、土のもつあたたかさ、立体造形の自由な表現を感じてもらおうワークショップを開催しました。作品展示も交え、館内のいたるところに江村さんのロボット型陶芸オブジェ《ROBO》を展示し、来館者との偶然の出会いを演出しました。また、江村さんを講師に招いた「ワークショップ」、《ROBO》を探して美術館内を隅々まで探検する「スタンプラリー」、美術館の形を外側から知ってもらう「美術館型ペーパークラフト」の3つのプログラムを開催し、こどもたちにこの夏限定の美術館を楽しんでもらいました。

**事業名：**こどもミュージアム 2019「ROBO ROBO ROBOT! in ミギシミュージアム」

**会期：**2019年7月20日(土)～9月1日(日)、38日間(開館日数)

**会場：**一宮市三岸節子記念美術館 1階 常設展示室、土蔵展示室、ロビー、中庭

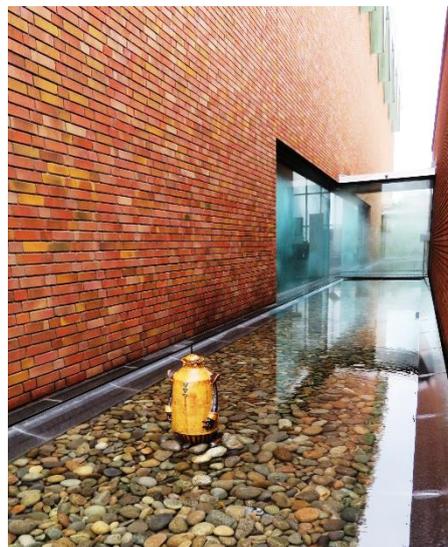
**入館者数：**4,632人(中学生以下のこども717人)

※企画展「小松美羽展」、コレクション展「日本人らしく」、貸しギャラリーの入館者を含む

**アーティスト：**江村和彦(エムラカズヒコ)氏

陶芸家、日本福祉大学子ども発達学部准教授。

1994年愛知教育大学大学院修了(芸術教育)、2001年に愛知県知多市にて陶芸家として独立。2010年名古屋経営短期大学の講師着任を経て、2015年に日本福祉大学へ。保育者や教員を目指す学生に造形を教えるかわら、幼児の土粘土遊び、造形ワークショップ、教科教育について研究している。陶芸では、ロボット以外にも恐竜や空想の動物も多数制作。また土鍋から色絵磁器まで幅広い食器制作も手掛け、個展・グループ展のほか多数出展。



## 関連事業報告

# 1 . ROBO をさがせ！探検スタンプラリー

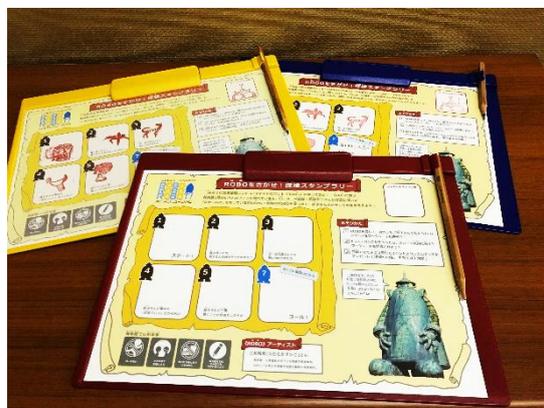
期間中毎日開催

参加人数：約 700 人

対 象：中学生以下

参加費：無料

館内に展示されている全 11 体のロボット型陶芸オブジェ《ROBO》を探して館内を探検し、スタンプを集めます。スタンプの柄は、代表的な三岸節子作品から取っており、それぞれ作品や家族とのエピソードを象徴する模様になっています。ワークシートでは、「美術館の中で見つけた自分にとってのたからもの」をこどもたちに考えてもらいました。中には、コレクション展「日本人らしく」をじっくり鑑賞してくれたのか、「節子さんの集めた日本らしいもの(はにわ)」と答えた子や、「節子さんが使っていたパレット」、「水路にいるロボット」という答えもありました。また、上級者向けワークシート「すべての ROBO をみつけよう！」を館内で配布し、大人を含めた来館者のみなさんに楽しんで探してもらえるようにしました。



## 2 夏のワークショップ「自分だけの ROBOT をつくろう！」

日 時：令和元年 7 月 30 日(火) ①10 時～12 時、②13 時 30 分～15 時 30 分  
8 月 10 日(土) ③10 時～12 時

講 師：江村和彦さん（陶芸家、日本福祉大学子ども発達学部准教授）

補助スタッフ：日本福祉大学 子ども発達学部 学生のみなさん（2 日間合計 15 名）

対 象：小中学生

参加人数：7/30(火) ①こども 20 名、保護者 11 名 ②こども 20 名、保護者 11 名

8/10(土) ③こども 22 名、保護者 24 名

合計 こども 62 名、保護者 46 名

参加費：500 円（材料費）



今回は、陶芸家・江村和彦さんを講師にお招きし、こどもミュージアムのテーマ「ロボット」と関連して、いろいろな素材を使って自分だけのロボット作品をつくるワークショップを開催しました。

各回定員 15 名で募集を行いましたが、120 名を超える応募があり、定員を 20 名に上げたうえでの抽選を行うことになるほど、大人気のイベントとなりました。

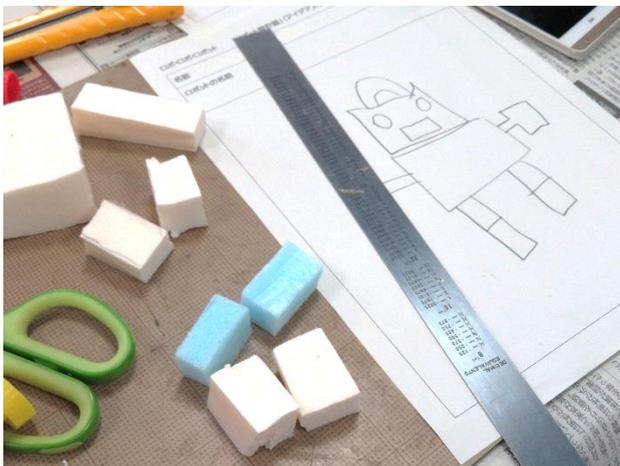
まず、江村先生の代表作《ROBO》についてこどもたちに紹介しました。

「土でできていて、たたくと固い音がするよ」、  
「ロボットにはいろいろな形のものがある、これは自分自身で思い描いたかたちの、ぼくのオリジナルのロボットなんです」といった先生のお話を、こどもたちも興味津々に聞いていました。



次に、この日特別に用意された多くの種類の材料、道具について説明がありました。あまり目にしない珍しい材料、ふだんは使ったことのない道具を使って、こどもたちにもものづくりの楽しみを知ってもらおう！という先生の考えのもと、とても多くのものが準備されました。

材料としては、大きな発泡スチロールや、プラスチックチューブ、紙製の筒や変わった形のビーズ、プラスチックのブロックなど。道具には、ふだん使わないカッターやのこぎり、ホットボンド(グルーガン)、発泡スチロールを切るヒートカッターが用意されました。こどもでは使い方がわかりづらいものもあるので、材料や道具の使い方について、くわしくレクチャーを行います。



使い方を学んだら、さっそく自分だけのロボットをデザインして、制作に取り掛かります。先生が言っていたように、ロボットの形は自由！人型はもちろん、うさぎ型、スピノサウルス型、はりもぐら型…、思い思いのロボットを考えて、スケッチができた子から、制作開始です！

ロボットを実現するため、まずはイメージにぴったりの材料を探します。大きな材料は、のこぎりやヒートカッターを使って切っていきます。先生や学生の皆さんがひとりひとりに付き添い、手伝ってくれました。中には、ヒートカッターを気に入り、何度も何度も切りにいく子もいました。





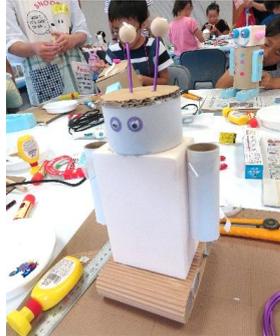
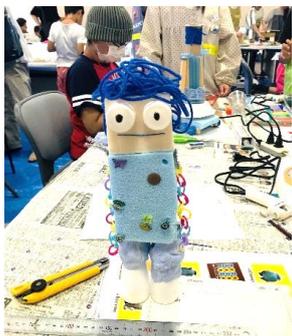
「発泡スチロールとダンボールを貼り付けるにはどうしたらいいの?」、「お椀型の頭にきらきらしたビーズをくっつけたい!」、「ロボットの肩をここから斜めに付けるには…」と、ロボットを完成させる方法を考えながら、材料を自分好みに切り、くっつけていきます。

どうしてもわからない時には、江村先生や学生のみなさんに相談して、「これを使ってみたらどうか?」、「穴をあけて針金を通したら動かせるよ!」といったアドバイスももらっていました。最初は慣れなかったホットボンドも、後半になると自分でスイスイ使えるようになった子もいました。





バラバラだった材料を自分で工夫して、切って、貼って、組み立てて…としていると、だんだんロボットのかたちができ上がってきます。  
アルファベットのシールを使ってロボットの体に名前を貼っている子や、ダンボールとペットボトルの蓋でロボットの足に格好いい可動式キャタピラを作った子、透明のペットボトルの中にピンク色の毛糸を詰めて、うさぎ型ロボットをつくる子など、大人でも驚くようなアイデアが次々と生まれ、とても個性豊かなロボットたちが誕生しました。



こどもたちの手がとまらず、2時間を越えるワークショップとなりましたが、「ロボットの頭が動くように工夫できてよかった」、「作っていると、どんどん新しい工夫が生まれてきて、時間が足りなくなるくらい楽しかった!」、「グルーガン、ヒートカッターを自分で使えて楽しかった!」という嬉しい言葉が聞こえていました。夏休みにぴったりのワークショップとなるよう、江村先生と考えたこのイベントでしたが、こどもたちにとっても、学生のみなさんや保護者の方と協力して、自分の思い描いたものを実際に創造してみる、という貴重な経験になったのではないかと感じています。



### 3 . けんせつ！せつこ美術館！

期間中毎日開催

参加人数：約 500 人

対 象：中学生以下

参加費：無料

夏休み期間中、特徴的な三岸節子記念美術館の“かたち”をこどもたちに楽しく考えてもらうため、美術館型ペーパークラフトをつくるコーナーを設置しました。当館の形は、三岸節子の実家が毛織物工場を経営していたことから、のこぎり形の屋根をもつ、赤レンガ造りの建物になっています。ペーパークラフトの中では上級者向けかと思いましたが、こどもたちも楽しそうに作り上げていました。美術館ペーパークラフトを作り上げたあと、美術館の天井を見上げ、「本当に屋根がギザギザになってる！」と驚いている子もいました。



## 4. 博物館・美術館・資料館 連携企画

### 「3館をまわって『いちのみや資料図鑑』をつくろう！」

期間中毎日開催

会 場：一宮市博物館、一宮市三岸節子記念美術館、一宮市尾西歴史民俗資料館

参加人数：210人

対 象：中学生以下

参加費：無料

一宮市博物館・三岸節子記念美術館・尾西歴史民俗資料館で配布する「資料カード」を使って、各館常設展示室で気になった資料・作品を観察、スケッチします。3館を回れば、1枚のシートに3館分の資料・作品の情報がそろい、オリジナルの『いちのみや資料図鑑』が完成します。たくさん書けば書くほど図鑑を厚くすることができ、1日で3館を回ってくれた子もいました。一人の子がどの館でどの資料・作品を選んだのかがわかり、職員にとっても興味深い企画になりました。



### いちのみや資料図鑑

著

いちのみや資料図鑑の作りかた

I. 一宮市博物館・尾西歴史民俗資料館・三岸節子記念美術館で1枚ずつ「資料カード」を書こう。

II. 「資料カード」を記入したら、それぞれの館の受付で見せよう。

一宮市博物館

尾西歴史民俗資料館

三岸節子記念美術館

**ICHINOMIYA CITY MUSEUMS**

3館をすべてまわると、オリジナルグッズをプレゼント！

年 月 日

III. 「追加調査」をして、自分だけの「いちのみや資料図鑑」をつくろう！

## 取材報告

F Mいちのみや「知っトク! いちのみや」 7月19日(金) 7:30~

【再放送】12:30~、17:30~

中日新聞「ROBO みつけて 探検スタンプラリー始まる」7月21日(日)尾張版朝刊

ICC チャンネル12「街ネタプラス」7月25日(木)6:30~

【再放送】7:30~、9:30~、12:30~、16:30~、19:30~、22:30~

ケーブルテレビ ICC 一宮市広報「I LOVE いちのみや」vol.489

「夏休み☆わくわくミュージアム!」8月12日(月)~18日(日)放送